

認第1号 令和4年度富士宮市歳入歳出決算認定について、審議した結果、賛成多数により認定されました。審議の中で、賛成討論と反対討論が行われたので、討論内容を以下のとおり掲載します（掲載は討論順）。

【反対討論】 近藤千鶴議員

新型コロナウイルスワクチン接種事業のみに反対です。

12歳から64歳までの年代層の方の接種率は1回目は85%、5回目は8.6%、6回目は2.4%でした。62歳以下の方は、最初はほとんどの方が接種していましたが、5回目、6回目は接種していないことが決算の中ではっきりしました。

今まで、ワクチンを接種する、しない、マスクをする、しないで私たち国民は分断されてきたような気がします。

今後も新たなウイルスの出現を考慮しますと、今回の経験を生かし、お互いを尊重し、人権を守りつつ、健康に対する取組を進めていくことが重要だと考えます。

【賛成討論】 中野健太郎議員

会派、富岳会、公明会、明和を代表しての賛成討論です。

経済の下振れ要因が顕在化する中、概ね適切な予算執行がなされたと判断し、市民のための積極的な取組がなされたことと評価します。

財政指標をみると、現在と将来の負担バランスを念頭に置いた健全性が示されています。事業実績では、物価高、燃料費高騰に対する独自政策を打ち出し、市民の生活を支えてきたと受け止めます。

決算審査特別委員会では出された質疑や意見を来年度予算編成時に大いに生かし、人口減少・少子高齢化という厳しい難局を市民・市議会・市が一丸となって乗り切り、今後も市民福祉の向上という命題を持ち、市民一人一人に寄り添う姿勢を堅持されることを期待します。

【賛成討論】 渡辺佳正議員

新型コロナ禍をPCR・抗原検査体制の充実、自宅療養者の生活支援などで大きな混乱を招くことなく乗り越え、市民要望に応える事業としては、補聴器購入費助成や住宅リフォーム宮クーポン事業など、必要な事業に必要な支出がなされている決算と評価します。

今後は、物価高騰やコロナ貸付金返済などで大変な市民の暮らしと営業を守る立場から、また、国が進めようとしている社会保障削減から市民の暮らしを守る防波堤として、適切な予算措置を求めます。

また、新型コロナワクチンの接種について、議員から提起された問題などで、市長の耳に届いていない市民の声に対しても、真摯に受け止めて誠実に答弁していただくことを要望します。